

平成22年5月28日現在

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2007～2009

課題番号：19500527

研究課題名(和文) 体育教師の「成長モデル」と研修プログラム開発に関する社会学的・実証的研究

研究課題名(英文) A sociological study on the guideline in the design of training program for junior high school P-E teacher considered from teacher's career

研究代表者

松田 恵示 (MATSUDA KEIJI)

東京学芸大学・教育学部・教授

研究者番号：70239028

研究成果の概要(和文)：本研究で得られた主な知見は、「中学校保健体育科教員の職能意識は、人間関係力/授業構想力/生徒管理能力/運動指導力/情報活用力の5因子で構成されていること」「職能意識は「情報活用力」<「授業構想力」<「人間関係力」<「運動指導力」<「生徒管理能力」の順に必要なだと意識されていること」「性差、地域差、正規/非正規等の属性差が存在すること」「キャリア段階における規範的な役割意識として、学生段階では「運動指導力」、初任段階では「生徒管理能力」、中堅段階では「生徒管理能力」と「人間関係力」、ベテラン段階では「人間関係力」が必要だと意識されていること」等である。この結果から研修プログラムは、このような実態に配慮したものであることが望まれることをいくつかの視点から提言した。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to show the guideline in the design of training program for junior high school P-E teacher in view of teacher's consciousness about job ability. In consideration of the precedence research on a P-E teacher's job ability, it is possible to build up three hypotheses; 1) P-E teacher's consciousness about job ability is not only about the capability of educational guidance, 2) P-E teacher's consciousness has a difference according to attributes, such as age, sex, and the area, 3) P-E teacher's consciousness has a difference by view of teaching profession. The P-E teachers of 973 schools replied to the question paper about the four contents. The contents of question paper are about teacher's attribute, P-E teacher's consciousness about job ability, job ability needed according to a career, and view of teaching profession. As a result of this investigation, the following five points became clear. 1) The teacher's consciousness about job ability consisted of five factors. 2) Job ability which teachers think it is required is the order of capability to manage a student, capability to teach a sport, capability about human relations, capability to design a class, and capability to utilize information. 3) The attribute of teachers, such as sex, area, and age, changes consciousness about job ability. 4) According to the stage of a career, job ability which a teacher needs is different. 5) The view of teaching profession, such as knowledge about the system which updates a teacher's license, and the necessity for the practical skill in the contents of training

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2008年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2009年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：体育社会学、体育科教育学
 科研費の分科・細目：健康・スポーツ科学 スポーツ科学
 キーワード：体育教師 成長モデル 悉皆調査 職能意識

1. 研究開始当初の背景

現在、学校教員の資質向上に関する議論が盛んに行われている。これからの教育のあり方が政策的にもっとも大きな課題の1つになりつつある今、その中心を成す問題として教員養成のあり方や教員免許制度のあり方が問われている。もちろん体育科、保健体育科を担当する「体育教師」の資質向上についても、教科特有の内容や学校教育における特有の役割をふまえつつ議論が積み重ねられるべきところであろう。

こうした状況の中、「実践的な指導能力の育成」をキーワードとした教員養成や研修のあり方について、近年、体育科教育学を中心にいくつかの研究が行われるようになってきた。特に、英語圏における研究では、例えばイギリス、ラフバラ大学の教員養成プロジェクトにも代表されるように体育科教育学的アプローチによる体育教師の「当為論(かくあるべきという理念)」と、体育社会学的アプローチによる体育教師の「存在論(かくあるという現実)」が組み合わせられ成果を挙げているのに対して、我が国では特に体育社会学的アプローチによる研究が皆無に等しい状態となっている。このために、体育教師のキャリアパターンやライフサイクル、養成や研修に関わる制度的現状、現場意識、基礎的統計なども明らかにされておらず、体育社会学領域においては必要度の高い研究課題になっているのではなかろうか。

ところで、特に教科担任制をとる中学校、高等学校において、保健体育を担当する教員は、独特の役割や期待を担っていることがよく知られている。教科指導のみならず部活動の指導や生徒指導

にも熱心に取り組む体育教師が多く、またこのことが管理職や地域のリーダー的教師として体育教師が期待されることにも繋がる場合が多い。一方で、このような背景から、逆に教科指導に対してあまり熱心でなかったり、体罰などの問題を引き起こすといったこともよく言われることである。また、実技を中心とする授業を指導するために、「ベテラン」になることの中身が外側からは捉えにくい。こうしたことは体育教師がある特有の教師文化の中で職業的に社会化される過程の存在を示唆するものであるし、こうした現実を無視しては、養成や研修のあり方をいくら理念的に考えても実効のあるものにはならないことをも示唆するものであろう。この意味で、体育教師の成長過程の現実をまず把握した上で、望ましい「成長モデル」が構築され、それに基づいた養成や研修のあり方を考えることが必要であると思われる。

2. 研究の目的

研究課題の目的は、体育教師に求められる初任時から定年退職時までの「成長モデル」について中等教育を対象とし社会学的・実証的に明らかにするとともに、明らかになった「成長モデル」から、現職研修の制度やプログラムを新しく開発する視点を明らかにし、免許更新制に関わる課題や実施時の研修内容について提言することである。

3. 研究の方法

中学校の体育教師が、「体育教師の成長」「研修」についてどのような意識を持っているのかについて、東京都、三重県、岡山県を対象に悉皆調査を

行う。学校単位の留め置き法、郵送法によって実施する。ここから、調査結果を集計・分析するとともに、「成長モデル」に対する教師の意識と「体育教師」への生徒のニーズから、体育教師の求められる「成長モデル」を理論化する。また、都道府県の教育委員会に対して、「体育教師の成長」「資質向上に関わる行政的課題」をどのように捉えているのか、についてのヒアリング調査を、東京、三重、岡山の3カ所で行う。こうした作業を通じて、体育教師のキャリアパターン、ライフサイクルについて基礎的な資料の整理を行う。

一方で、イギリス、アメリカ、タイにおける代表的な体育教師研修制度を現地調査を含め検討し、制度設計に見られる「成長モデル」「免許制度」「資質向上」に関わる原理を分析する。また、養成、検証における成果と課題について明らかにする。

最後に、研究成果を総合的に検討し、我が国において望まれる体育教師の成長をモデル化するとともに、それに基づいた研修制度のあり方、プログラムについて、各大学において開発を行う。また、開発された内容については、大学の公開講座ならびに各都道府県の研修講座において実践的に検証する。

4. 研究成果

(1) 中学校保健体育科教員が、「体育教師の成長」「研修」「免許更新制」についてどのような意識を持っているかについて、東京都、三重県、岡山県の3地域で、悉皆調査を行った。対象となった973校のうち598校1396名の回答を得ることができ、回収率は61.4%であった。調査は、先攻研究の検討から構成された内容によって行ったが、その結果、学生、初任者、中堅、ベテランの各時期において、体育教師が研修に必要と感じていることが異なっていることが明らかになるとともに、その傾向には一定のパターンが発見された。また、地域、性、教諭/講師、経験運動種目などの要因が、こうした研修に必要と感じる内容に対して影響を及ぼしていることが明らかになった。

(2) 中学生生徒に対して、体育教師に求めるものについての事例的な意識調査を行った。生徒の側からは、先の教師の意識に対して、より具体的な生徒との対面場面においての意識が強く現れる結果となった。また、生徒からは見えない仕事となっているものに対して、生徒は評価する視点を所持していることが示唆された

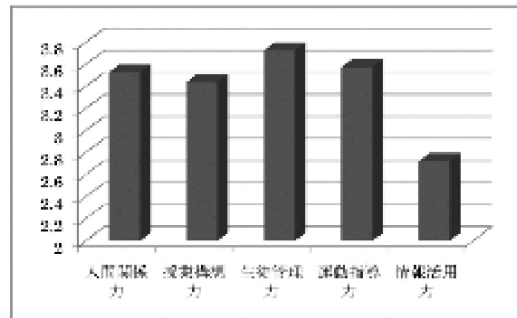


図1 職能意識下位尺度の平均得点の比較

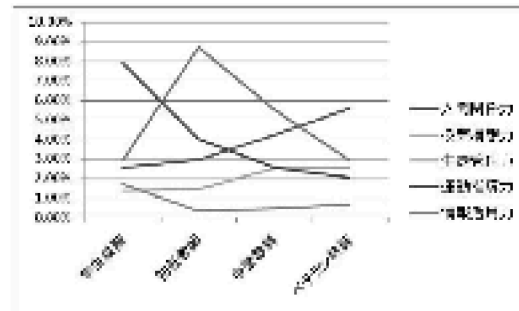


図2 キャリア段階別職能意識

(3) 京都、岡山県、三重県の教育委員会で、主に保健体育科教員の研修にあたっている担当者を中心に、インテンシヴな聞き取り調査を行った。また、保健体育科教員の研修講座の実施では日本有数の規模と歴史を持つ福岡県立体育研究所に対してもインタビュー調査をおこなった。この結果、教員からは、部活動や生徒指導に対するニーズが高く、一方で授業の指導についての関心が低いために、ニーズを受け取りつつ、授業の指導に対する啓発を行っている様子が共通して分析できた。

(4) 他教科から見た保健体育科教師の力量について調査するために、仮説生成的なヒアリング調査を岡山と東京で行った。かなりのステレオタイプが体育教師に対しての意識では存在するために、さらに対象数を増やして、調査を行う必要性が明らかになった。

(5) 諸外国との比較を行うために、教員免許更新制についての国際比較的検討を資料により行うとともに、教育制度を整えつつあるタイ王国にて、免許制度ならびに更新制に関する現地調査を行った。先進モデルから理念的な検討を思弁的に行うよりも、これまでの研究から明確になりつつある、「現実性」「実効性」といった要素から、ねらいと内容の関係で比較する必要がある

あったからである。この結果タイにおいては、現場教員や行政サイドからのニーズが、国レベルでの教員養成や研修に反映させていく仕組みが重視されていることが分析できた。この点における課題が我が国には見受けられるということである。

(6) 中学校における他教科から見た体育教師のイメージについて、東京都にてインテンシブな聞き取り調査を行った。その結果、体育教師に対して、生徒指導、教員に対するリーダーシップの発揮等、ポジティブなイメージと役割期待を持つ半面、授業への期待はそれほど高くなく、ことが多くの対象教員に共通して現れた。こうしたある種の教員文化の存在が、体育教師が感じる職能意識に影響を与えているであろうことが予想される結果を得た。学校における体育教師の役割について、広く周知したり啓発したりする取り組みが必要であることが伺われるところであった。

(7) 成長モデルとして本研究で構築された体育教師の職能意識の視点から、東京学芸大学、三重大学、岡山大学で行われた教員免許更新講習にて、初任者、中堅、ベテランの各時期において、体育教師が研修に必要と感じていることを生かした内容構成をとりモデル実施した。また、東京都の中学校保健体育科教師の授業研究会等でも、この内容を利用した研修を実施した。概ね、現場の教員からは高い評価を得ることができた。

(8) 学会におけるシンポジウム、比較調査を行ったタイにて、チュラロンコン大学でのフォーラムを開催し意見交換を行った。今後ともに、研究成果をより発展させるためのネットワークを形成できた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計7件)

- ① 松田恵示・原祐一・宮坂雄悟・酒本絵梨子、中学校保健体育科教員の職能意識から見た講習・研修設計の指針に関する研究、体育・スポーツ政策研究、査読有、19巻1号、2010、P. 35-P. 47

- ② 松田恵示、実態調査に見る学校が期待する体育教師の指導力、体育科教育(大修館書店)、査読無、56巻7号、2008、P18-P. 22

〔学会発表〕(計9件)

- ① 松田恵示、免許更新制と現職教員の力量、日本体育学会第60回記念大会・シンポジウム、2009. 8. 27、広島大学
- ② 加賀勝、中学校保健体育科教員の免許更新制と職能に関する意識調査(1) -免許更新制と受講者の課題意識-、第59回日本体育学会、2008. 9. 11、早稲田大学

〔図書〕(計2件)

- ① 松田恵示、田中聡 他、めざそう!保健体育教師、朝日出版、2010
- ② 田中聡、体育の授業者を育てる(第二部第8章「現場のリアル」と教員の資質 -日々の実務の中で遅く成長していける教員の資質とは)、美功社、2009

6. 研究組織

(1) 研究代表者 松田 恵示 (MATSUDA KEIJI)
東京学芸大学・教育学部・教授
研究者番号：70239028

(2) 研究分担者
加賀 勝 (KAGA MASARU)
岡山大学・教育学部・教授
研究者番号：40185707

山本 俊彦 (YAMAMOTO TOSHIHIKO)
三重大学・教育学部・教授
研究者番号：80210540

田中 聡 (TANAKA SATOSHI)
香川大学・教育学部・准教授
研究者番号：90516527

(3) 連携研究者
()

研究者番号：